

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

2001年(平成13年)10月5日 No.1206

目次	
大手3社の寡占が鮮明化するロシアの鉄鋼業	坂口泉 1
キーパーソン	6
ロシア・ロストフ州知事選の結果 / 6	
CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	6

大手3社の寡占が鮮明化するロシアの鉄鋼業

はじめに ロシアの鉄鋼分野は、ソ連解体後に大幅な減産を回避できた数少ない産業分野のひとつである。これは、ごく簡単にいえば、ソ連解体後、鉄鋼製品の輸出量が急増し、内需の激減による影響を最小限におさえることができたからである。1998年8月の経済危機以降は、さらに状況が好転しており、資金的余裕のできた大手メーカーの中には、他業種への進出を試みるものさえ現れてきている。本レポートでは、ダイナミックな動きをみせるロシアの鉄鋼分野について、全般的状況を紹介する。

なお、当会発行の『ロシア東欧貿易調査月報』では、近くロシア産業の大特集を組むことを予定している。この特集号では、これまで当会の刊行物で取り上げられることの少なかった分野も含め、できるだけ数多くの産業分野の現状を紹介することになっている。鉄鋼業についても、今回のレポートでは割愛した個別企業の動向、鋼管生産分野、鉄くず分野についての情報を加筆したレポートを掲載する予定なので、ぜひそちらの方もご参照いただきたい。

生産動向 ソ連時代、各鉄鋼メーカーの国内市場への依存度は極めて高く、生産される鉄鋼製品の約9割が国内に供給されていた。このため、ソ連解体直後は、内需不振の影響をもろに受ける格好となり、生産は減少傾向に転じた(第1表参照)。しかし、その後、内需の不振をカバーするような形で輸出量が増加しはじめ(第3表参照)、1995年以